

多賀城市自殺対策計画 推進状況について

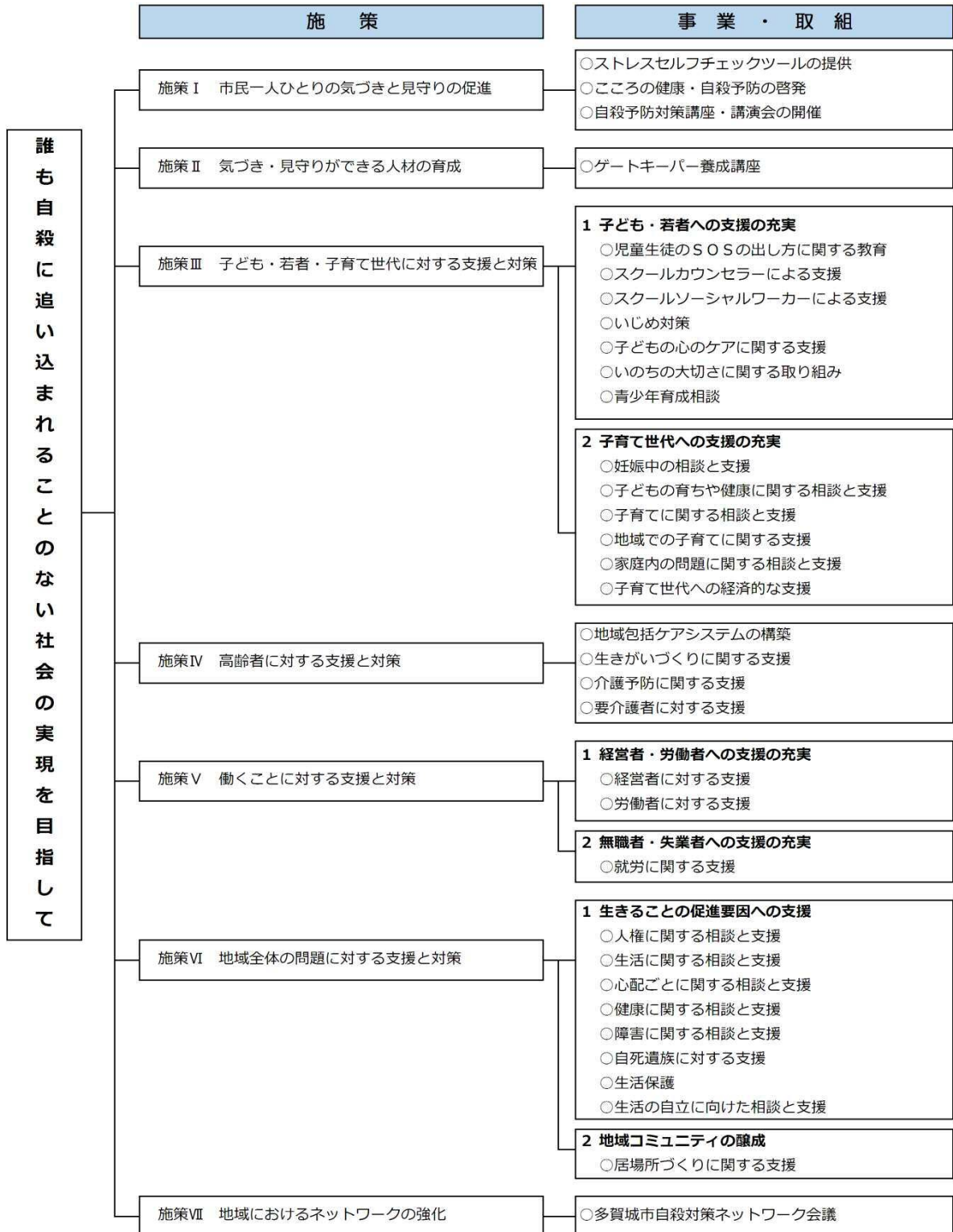
多賀城市自殺対策ネットワーク会議資料

令和4年1月13日

1 計画の基本理念と施策の体系

国が自殺総合対策の基本理念として掲げる「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指して」を計画の基本理念とし、その実現に向け次のとおり自殺対策に取り組みます。

また、計画の取り組み状況がわかるように、施策ごとに評価指標を設定します。



2 施策ごとの評価指標の動向

施策Ⅰ 市民一人ひとりの気づきと見守りの促進

自殺に追い込まれるという危機は「誰にでも起こり得る危機」ですが、危機に陥った人の心情や背景が周りの人には理解されにくい現実があります。

このような心情や背景への理解を深め、自殺は一部の人の問題ではなく、誰もが当事者となり得る重大な問題であることについて、市民の理解促進を図ります。

また、自殺に対する誤った認識や偏見を取り除くとともに、危機に陥った場合には誰かに援助を求めることが大切であるということの理解を促進することを通じて、市民一人ひとりの役割などについての意識が共有されるよう、啓発を行っていきます。

【評価指標】

指 標	指標の動きの基準	目 標	実績値			指標の動き
			H30年度	H31年度	R2年度	
こころの体温計アクセス数	上がると良い	7,500件/年	10,104件/年	8,158件/年	7,364/件	↘
自殺予防に関する啓発回数	上がると良い	年2回以上	2回/年	3回/年	3回/年	→
講座・講演会の開催数	維持できると良い	年1回以上	2回/年	2回/年	1回/年	→

施策Ⅱ 気づき・見守りができる人材の育成

自殺対策には、さまざまな悩みや生活上の困難を抱える人に対して早期の「気づき」が重要となる。

自殺の危険性が高い人の早期発見、早期対応を図るため、自殺のサインに気づき、声をかけ、話を聞き、必要に応じて専門の相談窓口につなぐことのできる人材を養成することを目的に、日頃から地域住民と接する機会の多い民生委員や介護支援専門員、悩みを持つ児童生徒を支える学校教育関係者、市職員などを中心にゲートキーパー養成講座を開催し、地域における自殺対策の担い手を育成します。

【評価指標】

指 標	指標の動きの基準	目 標	実績値			指標の動き
			H30年度	H31年度	R2年度	
ゲートキーパー養成講座開催数	維持できると良い	年1回以上	3回/年	2回/年	1回/年	→

施策Ⅲ 子ども・若者・子育て世代に対する支援と対策

子ども・若者・子育て世代への支援と対策は、年齢ごとの生活環境が異なることから、それぞれの生活の場に応じた対応が求められます。

抱える悩みは多様で、ライフステージや立場ごとに置かれている状況も異なることから、保健・医療・福祉・教育の分野の関係機関と連携し、それぞれの年代と置かれた状況に合った支援を行います。

【評価指標】

指標	指標の動きの基準	目標	実績値			指標の動き
			H30年度	H31年度	R2年度	
中学生の不登校生徒の出現率	下がると良い	出現率の低下	5.4%	4.5%	4.2%	➡
いじめ解消率	上がると良い	解消率の増加	72.2%	91.7%	67.6%	➡
児童生徒の学級生活満足群の割合	上がると良い	割合の増加	54.1%	54.8%	58.9%	➡
要保護児童対策地域協議会実務者会議における要保護児童終結率	上がると良い	終結率の増加	40.0%	30.0%	42.0%	➡
出産後の支援について満足している者の割合	上がると良い	割合の増加	87.6%	90.9%	82.7%	➡

施策Ⅳ 高齢者に対する支援と対策

高齢者は、退職による生活環境の変化、加齢による体調の変化や体力の低下などにより閉じこもりや抑うつ状態になりやすく、孤立・孤独に陥りやすい状況にあります。

高齢者特有の課題を踏まえつつ、多様な背景や価値観に対応した支援、働きかけが大切であり、地域共生社会の実現等の施策と連動した地域による支えあいの仕組みづくりや生きがいづくりによる社会参加の促進を図ります。

【評価指標】

指標	指標の動きの基準	目標	実績値			指標の動き
			H30年度	H31年度	R2年度	
認知症サポーターの人数	上がると良い	サポーターの増加	3,070人	3,551人	3,662人	➡
介護予防サポーターの人数	上がると良い	サポーターの増加	125人	126人	128人	➡
介護支援ボランティアの人数	上がると良い	ボランティアの増加	106人	130人	125人	➡

施策Ⅴ 働くことに対する支援と対策

勤労世代の無職者・失業者は社会から孤立しやすく、自殺のリスクが高まる傾向があります。

企業に対する誘致や立地支援により、雇用の場を確保するとともに、長期失業に陥らないよう、積極的な就労支援を行います。

【評価指標】

指 標	指標の動きの基準	目 標	実績値			指標の動き
			H30年度	H31年度	R2年度	
職業相談に係る就職者数（市民）	上がると良い	就職者数の増加	449人/年	408人/年	276人/年	➡

施策Ⅵ 地域全体の問題に対する支援と対策

自殺対策は、個人においても社会においても、「生きることの阻害要因」を減らす取り組みに加えて、「生きることの促進要因」を増やす取り組みを行うことが必要です。

自殺のリスクを低下させるため、保健・福祉をはじめ様々な分野において、相談・支援体制の充実や福祉サービスの利用についてわかりやすい発信をするとともに、地域コミュニティの醸成を図り、孤立を防ぐための居場所づくりなどに取り組みます。

【評価指標】

指 標	指標の動きの基準	目 標	実績値			指標の動き
			H30年度	H31年度	R2年度	
男女共同、性的少数者及び障害者の差別解消に関する啓発回数	上がると良い	啓発回数 の増加	6回/年	6回/年	5回/年	➡
生活相談により相談者の課題が解決した件数	上がると良い	解決件数 の増加	153件/年	124件/年	223件/年	➡
市民活動促進事業の開催数	上がると良い	開催数 の増加	30回/年	35回/年	34回/年	➡

施策Ⅶ 地域におけるネットワークの強化

関係機関が連携・協働して自殺対策を総合的に推進するため、本市では、地域で市民生活の相談や支援に携わる機関と、「生きる支援」に関連する事業を行う市役所関係課による「多賀城市自殺対策ネットワーク会議」を設置し、様々な分野の生きる支援にあたる人々が、それぞれ自殺対策の一翼を担っているという意識を共有するとともに、横の連携を深め、適切な支援につなぐことのできる支援体制を整えていきます。

【評価指標】

指 標	指標の動きの基準	目 標	実績値			指標の動き
			H30年度	H31年度	R2年度	
ネットワーク会議の開催回数	維持できると良い	年1回以上	3回/年	1回/年	1回/年	